

岐阜県立大垣南高等学校で防災講座を行いました

令和8年6月25日（木）、ダブル台風7号・8号が日本列島に接近する中、岐阜県立大垣南高等学校で1年生約20名に防災講座を行いました。学校の近くには、揖斐川や水門川・相川・牧田川など多くの河川が流れており、浸水リスクの高い地域です。

講座では、大垣市でも被害のあった令和6年台風10号や今年で50年の節目を迎える9.12豪雨災害などの水害、新たな防災気象情報を学習し、映像やVRによる浸水疑似体験、伊勢湾台風A1語り部との対話体験を行いました。

代表のVR体験者からは「ニュースで危険警報などが出たら、早く避難したい」「これくらいは大丈夫だろうと思わず、すぐ避難したい」との感想があり、A1語り部体験では避難所での生活や伊勢湾台風の威力・影響などの質問をしていました。また、体重計を用いた「ドアにかかる水圧体験」をした生徒からは「大変だった」との声があり、浸水時にドアを開ける困難さが伝わっていました。

今回の講座が、生徒たちの防災意識向上に繋がり、将来「守られる人から守る人」になって頂けることを期待しています。

なお、当日は岐阜新聞の取材がありました。

